

## 荒川上流部改修 100 周年実行委員会

日時:平成 30 年 1 月 17 日 10:00～12:00  
場所:さいたま新都心合同庁舎 2 号館14F  
災害対策本部室

### 【議事要旨】

#### 1. 開会

(古市委員長)

- ・荒川改修の歴史、流域の街の歴史、住民の営みとともにある。荒川は川と街が隣接しており、人・街・川の連携重要。
- ・荒川は寄居から板橋まで上下流をつなぐアイコンでありアイデンティティ。地域を打ち出していきたい。
- ・100 年は通過点。振り返るだけでなく未来を見据え、定例的な自治体イベントと連携し取り組みを行っていききたい。

#### 2. 荒川改修の経緯 100 周年(平成 30 年)に向けた取り組み

##### 【事務局説明】

(古市委員長)

- ・1 年間あるので、取り組みとしてできることは付け加えながら、行っていききたい。
- ・各機関と連携し、メリット一致したらご協力・ご活用いただきたい。できるだけ広げていききたい。

(埼玉県)

- ・沿川以外の人々にも荒川を知ってもらい、沿川外からも来てもらうような取組を行ってほしい。
- ・例えば鉄道事業者へのポスター協力依頼について、沿川以外の駅についても掲示してはどうか。
- ・治水安全度の向上には自治体の取組みも寄与しているということを知っていただけるよう工夫してほしい。

(古市委員長)

- ・100 周年の取り組みが、地域活性、地域振興につながれたらよい。
- ・流域を越えた取組みも考えていきたい。私案であるが、多摩川も 2018 年が改修 100 年であることから、鉄道事業者も含めてコラボ、連携していきたい。
- ・自治体の魅力周知に、荒川上流河川事務所としてコラボ、連携していきたい。

### 3. 意見交換

(古市委員長)

- ・荒川の改修は終わっていない。今までの100年、これからの100年をテーマとし、地域や河川の関わり、これからの未来に対するご意見を賜りたい。

(東松山市)

- ・東松山市を流れる都幾川では、川のまるごと再生事業と連携して、憩いの場、バーベキュー場を整備し、3万人に会場いただいている。
- ・昨年の台風21号で、都幾川、市野川が氾濫危険水位を超えた。3年連続の避難勧告発令している状況。治水安全度を高めながら親水性を高めていきたい。
- ・市で水防災などソフト対策を行っているが、ハード対策である本体の堤防整備を行ってもらいたい。地元も最大限の努力を行っていきたい。

(和光市)

- ・歴史を拝見して、荒川の西遷やカスリーン台風のことは知っているものの、まとめて知る機会がなかったため、今回の委員会のような機会は貴重。
- ・平成16年に荒川第一調節池が完成し、対岸の自治体として、感謝している。
- ・近年の洪水について、荒川本川に対して危険は感じないが、内水氾濫、支川に不安を感じている。昨年10月23日の台風21号では新河岸川の支流があと一歩で越水するところだった。
- ・地域で防災体制を整え、引き続き住民の安全を守っていきたい。
- ・和光市の地域では、荒川周辺は市街化調整区域が多く、地域住民は荒川のことを断片でしか知らないと思われる。イベントは当市で行い、コンテンツを荒上で作製いただきながら、啓発していきたい。

(坂戸市)

- ・坂戸市では、浅羽ビオトープで自然観察や環境学習を行ってもらって感謝している。またウォーキングイベントにおいて1日千人の人が高麗川の堤防を利用している。
- ・近年の集中豪雨で甚大な被害を受け、緊急対策事業が実施されており、樋門・水門が3つ完成した。そのうち排水ポンプ場ができているのは半分であり、残りができないのは東京を守るためでないか。
- ・内水被害に市民は不安をもっており、特に昨年台風21号の内水の出方は今までとは違った。市では消防団に出動をかけた。内水についても、国と県の協力をお願いしたい。

(川島町)

- ・名前の通り周囲を川に囲まれているが、ここ70年大きな洪水被害がおきていない。
- ・近年気象環境が変わってきており、時間雨量100mmが当たり前になってきた。鬼怒川のこともあり

大変気になっている。

- 昨年台風 21 号では水位があぶないところまで来ていた。堤防強化をお願いしたい。
- 支川にもポンプ場作ってもらい、内水氾濫軽減に寄与しているが、今後想定される大洪水では、水位が計画高水位になると自動的に止まることになる。大洪水に備え、荒川流域を面としてとらえて、荒川本川の水位を正確に計算し、ポンプ停止するのではなく早めにポンプを多く稼働させ、内水排除に向けて、荒川の能力を最大限活用できる手段を検討いただきたい。町としても最大限協力していきたい。

(吉見町)

- 昨年台風 21 号は排水機場が稼働したことで、大きな内水被害がでなかった。ただし、イチゴ栽培箇所では浸水あり、1 昼夜、長いところでは 2 昼夜浸かったところもあった。
- 町では、災害対応に関しては空振りだよいと考えている。被害が起こる前から準備を行い、土嚢も事前に準備することとしているが、今回の台風ではすべて使うことになった。
- 吉見町では、洪水被害がある一方で、昔から洪水が多く肥沃な大地を生み出していった。上流部改修で洪水の状況が一変し、イチゴ生産についても県内一であり、13 町歩の作付けを行っているところ。
- 荒川上流部改修 100 周年に関して、水防イベントでブース設置し、継承していくことが大事と考える。引き続き、2537m の川幅日本一とイチゴの PR に努めていきたい。

(鳩山町)

- 昔は荒川の支川が毎年のように氾濫していたものの、近年は、民家の床上床下浸水がまったくなくなった。改修の成果でありがたい。
- 越辺川と鳩川合流部の整備が残っているものの、地元コンクリート工場の存在や、越辺川、鳩川の河川改修、県道整備、橋の整備などが重複し、なかなか事業化が進まなかった。ようやく県道、鳩川、橋の架け替えを埼玉県にて事業が進められていることから、国でも越辺川整備を同時に行ってもらいたい。

(寄居町)

- 寄居町は、比較的洪水被害の少ない町で、270 年前に洪水の痕跡があった程度。
- 現在は、主に荒川を活用しており、鉢形城や川の博物館、はつらつプロジェクト、玉淀を中心にした観光地化を行っている。
- ただし、飲み水としては荒川ではなく、寄居町の住民 70% が利根川の水を利用している状況。水源の涵養がこれから重要と考える。

(桶川市)

- 桶川市では、太郎右衛門地区の自然再生を行ってもらっている。国と連携した取り組み行ってい

きたい。

- ・市にはホンダエアポートがあり、空にもつながっている。市の観光拠点にできるのではないかと考えており、PR 等も行っていきたい。

(川口市)

- ・出席者の中では最下流の自治体。昨年荒川河川敷にドックラン、バーベキュー場が完成した。荒川下流河川事務所には感謝申し上げたい。
- ・水辺の学校では、小学生が水辺で自然と触れ合ういい機会となっている。
- ・治水が一番重要と考えており、最近の小説では、荒川が決壊する話があり、想定していた箇所が次々に破堤していくものであった。このように堤防の決壊箇所が想定できるのであれば、早めに堤防強化に努めてもらいたい。

(戸田市)

- ・以前は陸の孤島のようなであったが、昭和 60 年から JR 埼京線が整備されたことを受け、都市化が進み、劇的に発展してきた。
- ・戸田市には戸田ボートコースがあり、今後より活用していくことがいいと思う。
- ・昔は水害が多く、農家には避難用ボートが掛けられていたが、最近では見なくなった。
- ・戸田橋付近にて対岸の板橋区と共同で花火大会を毎年実施しており、風物詩となっている。荒川上流部改修 100 周年の PR に使えるのでは。
- ・笹目橋の堤防との取付部が一部低かったが、今年、盛土工事が始まった。ありがたい。
- ・今後も連携し、水辺を生かしたまちづくり、治水安全度の向上を目指していきたい。

(川口市)

- ・昔は洪水時に川幅いっぱい増水していたが、最近は見られない。昨年台風 21 号で河川敷に水があがったのは十数年ぶり。荒川上流部における改修工事の賜物であり、ありがたい。

(朝霞市)

- ・昭和 57 年及び平成 3 年の台風 18 号で大きな被害を受けた。昨年の台風 21 号等、最近 10 月に入っても被害がある。鬼怒川の決壊、ゲリラ豪雨等、市民の関心が強い。
- ・朝霞水門の管理において、台風 21 号の際には荒川の水位上昇があり、水門を閉じるのか開けるのかの判断が難しかった。
- ・平成 26 年出水以降、市街地でも内水による浸水被害が増加している。市でも対策を行うが、国、県でも対策をお願いしたい。

(鳩山町)

- ・明治 43 年の大洪水では、越辺川、鳩川で氾濫し、畑が川底に変わった。過去の大洪水の記録、

今収集しておかないと風化してしまうため、収集してほしい。

(板橋区)

- ・荒川の氾濫があり得ることを前提に、板橋区、北区、足立区においてタイムラインを作成している。タイムライン作成においては、要介護者の避難をどうするかを課題として、検討している。
- ・板橋区には石神井川、新河岸川、白子川が流れており、流域 50mm 対策を行っている。急な水位上昇があるため、東京都、荒下と水位対策を実施していきたい。

(上尾市)

- ・上尾市では、国交省が行う出前講座を活用してきた。
- ・市ではサイクリングを推進しており、荒川におけるサイクリング利用者が大変多いため、イベントなどで 100 周年を広報できればよいのでは。
- ・花火大会も実施しているため、タイアップし荒川を PR していきたい。

(古市委員長)

- ・各地域とも利用面での取り組みや防災の切実なご意見いただき、誠実に受け止めている。
- ・ハードの整備は今まで取り組んでいるが、まだ課題がいろいろあるため、バランスとりながら行っていく必要がある。100 年の取り纏めを行なっていく中で進めていく。
- ・内水氾濫について危機感や課題についてお聞きした。低いところに向かって貯まる内水が、自治体の大きな関心ということを感じた。
- ・地域特性や出水の経験ない若い世代など取り組みをどう行っていくのか今後調整していきたい。
- ・AI などの技術革新は活用していく。
- ・川はつながっている。流域全体を守り、整備計画でも様々なことに取り組んでいく。
- ・荒川を活かしていくための各方面への打ち出しをしていき、2018 年をひとつのきっかけとし、取組の年としていく。
- ・この機会に、OB や過去の体験者の記録を残していきたい。広範囲に触れるようにしていく。自治体からのご協力をいただきながら、実行していく。

(荒下)

- ・荒川下流は笹目橋より下流を管理しているが、上下流にうまく連携していく。下流管内で要望があれば、連絡いただきたい。

(二瀬)

- ・上流域は人口が減少しており、水源整備が行き届いていないとの認識がある。現状、役割を中下流にお伝えしていきたい。

(東京都)

- 荒川上下流の整備により、東京の下流部において洪水の被害がほとんどない。感謝申し上げたい。
- 新河岸川流域である白子川において、地下調節池など治水施設の整備を行っており、今後も治水対策に取り組んでいく。
- 東京都民は上流域の恩恵を受けているということを、知っている方が少ない。今後 PR していきたい。

(埼玉県)

- 近年、内水被害が多い。事業連携を図り、減らしていきたい。
- また、荒川本川などの整備を進めてもらい、流下能力の向上、ピーク減を図ってもらいたい。
- 過去の歴史、浸水被害の状況などの記録を、残す努力をしてもらいたい。

(水資源機構 荒川ダム総管)

- ダムにも多くの方が来てもらっている。浦山ダムでは資料館があり、情報発信をしており、100 周年のPRに取り組んでいきたい。
- 上流域は人口が減少しており、水源管理に苦慮しているが、地域では、荒川を守る意識が強いいろいろな取組を行っている。

(古市委員長)

- 引き続き連携していきたい。

以上